



2020年9月30日

各位

会社名 ユニデンホールディングス株式会社  
 代表者 代表取締役社長 西川 健之  
 (コード番号 6815 東証第1部)  
 問合せ先 取締役 CFO 武藤 竜弘  
 (TEL: 03-5543-2812)

2020年3月期通期連結業績と前期実績の差異および特別損失計上に関するお知らせ

当社は、2020年3月期において、通期連結業績と前期実績との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、連結業績および個別業績において、特別損失を計上いたしましたので、併せてお知らせいたします。なお、当社は当該期間に係る業績予想を公表していないため、増減につきましては実績値との比較になっております。

## 記

## 1. 2020年3月期 通期連結業績と前期実績値の差異

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益 又は 親会社株主に帰属 する当期純損失 (△)	1株当たり 連結当期純利益 又は 一株当たり 連結当期純損失 (△)
前期実績値(A) (2019年3月期)	百万円 20,669	百万円 2,294	百万円 2,381	百万円 1,380	円 銭 234.65
当期実績値(B) (2020年3月期)	20,034	544	449	△463	△78.83
増減額 (B-A)	△635	△1,750	△1,932	△1,844	—
増減率 (%)	△3.1%	△76.3%	△81.1%	△133.6%	—

## 2. 2020年3月期 通期個別業績と前期実績値の差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値(A) (2019年3月期)	百万円 6,676	百万円 733	百万円 909	百万円 649	円 銭 110.43
当期実績値(B) (2020年3月期)	5,364	416	281	186	31.78
増減額 (B-A)	△1,312	△317	△628	△463	—
増減率 (%)	△19.6%	△43.2%	△69.1%	△71.2%	—

### 3. 開示を要する差異が生じた理由

#### ① 通期連結業績差異が生じた理由

連結売上高は、不動産事業において、安定した賃貸収入を基盤として、積極的な売買活動を展開いたしました。一方、エレクトロニクス事業においては、厳しい事業環境の影響を受ける結果となりましたが、連結売上高は、ほぼ横ばいに留まりました。

連結損益は、エレクトロニクス事業における大幅な減益（△1,379 百万円）を不動産事業での安定した賃貸事業の利益により支えたものの、コロナウィルス感染拡大による不動産売買市場の後退懸念を鑑み、不動産鑑定書に基づく保有不動産の評価減 496 百万円を実施し、連結営業利益△1,750 百万円および連結経常利益△1,932 百万円の大幅な減益となりました。

（特別損失について）

親会社株主に帰属する当期純利益は、第3四半期における不適切な会計処理にまつわる決算訂正に関連する調査費用・追加の監査報酬等を特別調査費用として716百万円、また、以前から、車載用製品の広告宣伝を目的に保有していた車両の遊休化に伴い当該車両を減損処理し、55百万円を特別損失として計上した結果、463百万円の当期純損失となりました。

#### ② 通期個別業績差異が生じた理由

エレクトロニクス事業における厳しい事業環境により、販売高が前年比 85.6%と低調であったため、当社の仲介貿易による売上高についても、前年比 80.4%となりました。販売費及び一般管理費は概ね横ばいの 1,275 百万円（前年比 96.4%）となり、営業利益は売上高減少の影響を受け、大幅な減益となりました。経常利益は、厳しい事業環境による販売高減少及びコロナウィルス感染拡大による受注の不透明さを鑑み、主に Uniden Vietnam LTD.への関係会社支援損失引当金の 206 百万円の計上したことにより、更に減益幅を拡げました。

（特別損失について）

UAC 社の会計監査人であった BDO USA, LLP の監査打ち切りに伴い発生した追加の監査報酬等を特別調査費用として、特別損失 79 百万円を計上しています。また、以前から、車載用製品の広告宣伝を目的に保有していた車両の遊休化に伴い当該車両を減損処理し、55百万円を特別損失として計上しています。

以上